

平成26年度 各園の取り組みと振り返り
(成果と課題)

永福保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの発達を考えながら子どもが自分で選択できることを意識し、遊びたいと思う場所や遊びの種類を選べるよう環境を工夫する。 ◎やりたい遊びを選んで楽しめるようおもちゃや絵本等を用意。子ども達も友だちと関わりながら好きな遊びを楽しんでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎一年間を通じて「ねらい」や「育って欲しい力」を担当間で話し合う。 ◎子どもが今興味関心のあることから遊びが広がる環境設定をしていく。 ◎遊びやおもちゃが決まってしまうので工夫したり新しい遊びや玩具を導入していきたい。 ◎素材や遊びが定着しがちで自分で選ぶものの長続きせず、集中して楽しめる工夫をする。
	子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎与えられる環境でなく、自分の興味を追求できる場で、意欲を強く持ちながら遊ぶことで楽しさが倍増しているようであった。 ◎保育士が見守ることで、自由に五感を使って遊びを継続していた。 ◎保育者が教えるのではなく、友達や異年齢児から学ぶ環境があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが選択できる幅を増やしておく準備が必要。 ◎興味関心が持てない子への配慮。 ◎やりたいことを友だちや保育者に伝え共有できるように見守る必要がある。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの活動の様子や言葉等を意識しながら、保育士が代弁や共感をするのが大切。 ◎子どもの反応などを予想して、子どもに考えさせるような声掛けが必要であると感じた。 ◎出来るできないという目線で見ずに、プロセスを重要視するようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの次の行動を予測しながら見守り、その後の活動を受容していく。 ◎子どもの発達に合った声掛けをすると共に、探究心がもてるように導く。 ◎子どもの声をどこまで聞き入れるか葛藤がある。担任間でもよく連携をとり保育を進める必要がある。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<ul style="list-style-type: none"> ◎掲示することで保護者が取り組みの様子を知り、子どもの成長や発達をあらためて認識してもらう機会となった。 ◎ねらい、考察、子どもの言葉、保育者の言葉などを伝える機会となった。 ◎園便りについて、子どもの情景が浮かんでくるような書き方を意識することでより伝わりやすくなった。 ◎改めて自分の保育を振り返る機会となった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎行事だけでなく日頃の保育での成長や発達など積極的にドキュメンテーションにして保護者に発信していく。 ◎子どもの発見気付きを逃さないようにする。 ◎一瞬の子どもの姿を写真に収める難しさがある。描き方まとめ方を学び経験する。 ◎単発ではなく繰り返すことによってより見やすいものにしていく。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ◎ドキュメンテーションを掲示することで足を止め真剣に読んでくださる保護者もあった。また子どもの育ちを保護者と共感し理解を深められるきっかけになった。 ◎結果がよい悪いではなく、過程を理解してもらう機会であり、加えてノートや口頭で伝えることで成長を共感できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保護者全員が目留めているわけではなかったのドキュメンテーションの取り組みを続けていくことによって少しずつ興味を持ってみていただくようにしたい。 ◎細かすぎる文章は保護者に見てもらえない場合もあるが、内容は充実していきたい。
	職員同士 園全体	<ul style="list-style-type: none"> ◎職員同士が子どもの発達成長を話し合いながら、ドキュメンテーションに取り組み、共通理解や保育の振り返りの機会となった。 ◎各行事だけでなく日常のことも話したり、意見を出し合う機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎共通理解のうえ保育を見る目の向上を図っていけるようにする。 ◎実際に書くことで意識したり考えたりして分からないことも明確になってくる。 ◎行っている保育について見直す機会となる。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ◎行事のための保育ではなく、日頃の保育の延長としての行事としてとらまえることの大切さを再度認識できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎行事があるから取り組むのではなく、子どもの生活から行事へ繋がるような取り組みをすすめるようにしていきたい。 	

ドキュメンテーション



岡田保育園

項目	現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境 ◎園庭には、自然素材や子どもたちが使うと予想した道具を置き、導線や遊びの展開を考え、遊具(雲梯、ローラー滑り台等)の配置を変えた。泥、水、砂、植物で十分に遊べるようにし、遊び・季節の変化に合わせて、素材や道具を＋した。デイリーの見直しも行った。室内には、積み木、製作コーナー等整え、毛糸、空き箱、布テープ等自由に使えるようにした。 ⇒好きなことを各自が始めたり、友達に刺激されながら、繰り返し遊びを続ける、遊びを創り出す姿があった。	◎環境準備図を記入し実践したが、指導案と環境の整合性が難しかった。子どもの興味関心、遊びの展開に対してのきっかけ作りと見通しを持ち、環境(素材教材含む)を準備することが弱かった。 ◎環境構成に対しての保育士の共通理解が不足していた。 ⇒全職員で、環境構成の意味、共通理解をすすめる。自然物(樹木、植物、野菜)の環境を充実させたい。
	子どもの姿 ◎「遊びたい、続きは明日する」と、意欲や積極性が以前より増している。「これを〇〇に使う」と家からも空き箱等持参する。目的が明確化してきている。低年齢児が大きい子の様になりたい！～したいと、あこがれ度を示す場面が多く、真似る、発言する姿が多くなった。好きな遊びがクラス遊びへも発展した。 ⇒異年齢児の関わりが多くなってきている。考えたり、試したり、作ったりと子どもが自ら、行動、遊ぶ姿が多くなった。クラス単位でも、「〇〇ごっこ」と活動が展開した。	◎好きな遊びやしたいこと、やりたいことはある程度継続するが、充実した遊び込みには至っていない。指導案、環境とも関連してくると、科学的視点や創造的な遊びは少ない。 ◎自由さが増してくると、わがまま、気ままな姿も増えてくる。 ⇒遊びの展開への気づき、見通し力を子どもも保育士も付けていく。発想力を持ち、遊びの多様性を受け入れる。社会性や協調性が身につくような視点、活動内容を増やす。
	保育士の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等) ◎子どもの遊びや姿の捉え方が変わった。 ◎保育士主導を控えた。声かけするとき、間を持ち子どもの声、想いを聴くように心がけた。 ◎子どもの声、行動をメモにとったり、写真にとったりする機会が増えた。 ⇒ひとり一人の遊びや様子がよく判るようになった。その子のありのままを受け入れられる視点ももてた。	◎主体性や自主性を重んじると、今、この瞬間どう？声をかけ、何を言うのかを悩み、迷い、難しい。 ◎保育者の教育的意図を、遊びにどう組み込んでいけば良いのか判らない。 ◎未だ未だ、保育士が決め、主導している場面が多い。 ⇒発達やひとり一人の育ちをおさえ、声かけのタイミングや寄り添い、聴き取る保育力をつけていく。
可視化共有	ドキュメンテーション(クラスだより、園だより等も含んで) ◎「今日の遊び」に写真、一言コメントをつけ、クラス毎廊下に掲示をした。その掲示物はクラス別にファイルに残した。 ◎クラスだよりに発達の様子を記述する文が増えた。園だよりでも可視化に取り組んでいると再々伝えた。 ◎ドキュメンテーションは、常勤保育士が1例ずつ作成した。 ⇒保護者も子どもと一緒に見て、会話が弾んでいる。ファイリングしたことで、保育記録(日誌)の振り返りも判りやすかった。作成して見て、子どもの様子、変化が見えてきた。	◎エピソードや遊びの様子を可視化し、コメントをつけるテーマ選別に迷う。時間がない。 ◎ドキュメンテーションとして、どこにテーマを持ち製作するのが、悩みが多い。製作時間が無い。 ⇒子どもを観る着眼点、育つ力は何かを押さえながら、保育の可視化に努める。写真の撮影ポイント、コメント記述の方法等、トレーニングをする。製作時間を全職員で協力しつくり出す。
	保護者 ◎廊下の貼り出し記事、ドキュメンテーションに目をとめ、読んだり見たりしている。「顔が見えん…」のつぶやきや眼も留めず通り過ぎる人も居る。 ◎行事を見直した件(子どもの主体的な遊び)について、理解が有り、感想を連絡帳等で知らせてくれる人も居る。 ⇒「今日は、〇〇したんだねえ」と、活動には関心を寄せている。個人差はあるが、育ち、教育的意図に理解を示す感想もある。	◎どの程度、理解、興味関心があるのか判らない。 ⇒より判りやすい、保育内容の説明、可視化をしていく。園と保護者の協働、共有を推進。
	職員同士園全体 ◎主担任の枠を外し、△△コーナー担当等と決め、実践をした。「〇組の～ちゃんが・・・でした」と遊びの様子やつぶやきを報告するようにした。職員会や打ち合わせで話し合う機会をもった。 ◎ドキュメンテーションを製作しながら互いの視点、考え方に触れた。 ⇒各クラスの展示物を見て、互いの保育実践に興味関心が深まった。	◎日々、忙しすぎる。活動内容や、その保育士の想い、視点は判りやすくなったが、十分な話し合いが出来ていない。記録、ドキュメンテーションを書き、作って終わりになっている。 ⇒保育の振り返りや視点、着眼点について、話し合う機会を持つ。園内研修の実施。
その他	行事等その他 ◎木下教授の指導を受け(6月、8月来園)、保保連携や「夢中になって遊ぶ」「集めるより、集まる保育」の実践をした。 ◎市内行事5歳児合同保育を保保連携の流れで取り組んだ。園内行事を各見直し、変更した取り組みがある。 ⇒行事日为目标と練習を繰り返すのではなく、日々子どもたちの遊びを展開、興味関心の強いこと、アイデア、意見を取り入れ、子どもと創る行事となった。(夏祭り、キャンプ、運動会、表現会等)	◎地域活動(保小連携、交流・敬老会出演)を含め、長年続けてきた行事、活動が多い。 ◎エピソード記録を書く余裕が無かった。トピック選び等、実践例が少ない。素敵な場面に気付かず、見逃している。 ⇒好きな遊び時間と設定保育の在り方を更に考えて実践していく。日々の保育と行事の在り方も見直し、工夫していく。

ドキュメンテーション



・園児は、口々に「あ、こんなことしたなあ」「これ、面白かったやん」等、指さしながらみている。
 ・保護者は日々の活動報告に加え、ドキュメンテーションにも、目を通してきている。

さくら保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	七条沿いにある為、自然への環境は近くにはない。 第二グラウンドに新しい遊具が出来た。天気の良い日には外遊び、園外保育を行っている。	散歩、園外保育を多くやっていき、職員人数を検討していきたい。お遊戯室、教室以外の室内遊び場を考慮する。
	子どもの姿	子ども達のやりたい遊び、季節の行事を大切に、色々なことを経験している。	季節の行事、秋には造形活動と子どもの行動も行事の中で遊び時間を決めて活動している。自由時間の持ち方について検討していきたい。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	子どもの気持ちを大切に一人一人への声かけ、成長にあった援助を行っている。	子どもだけでなく、保育士も振り返りの時間を作っていきたい。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	園長含め、全員でとりくむことができた。 参観日、発表会などで貼り出し、保護者へも可視化を行った。	担任の負担にならないようにしていきたい。
	保護者	ドキュメンテーションについて「うちの子が写っている。」「こんな事をしてもらっている」とのコメントがあった。	
	職員同士 園全体	みんなで頑張りました。 話し合いも沢山持ち、作業などで負担が大きかった。	秋の運動会、秋の造形活動が大がかりの行事なので時間との闘いである。 担任の負担にならないようにしていきたい。
その他	行事等 その他		

ドキュメンテーション

さくら保育園 年長5歳児 さくら組

朝顔での色水あそびで色に興味を持っていた子どもたちが
色んな色や紙以外のものにもやりたいとの声が上がリ
色染に挑戦しました。

野菜やオレンジの皮を自分たちで選び色染めに挑戦。
鍋でゆでると色が出てきて興奮気味の子どもたち。

完成後、色んな色に感動し、自分の染め物のニオイ確かめる子どもたち。
自分の作品に自信を持ち、他の子どもたちとの違いを認識し合い、
お互いを評価することができました。



平保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	◎子ども達が自主的に遊びを発展できるように、廃材や、紙、テープ等を子どもの届く位置に配置するようにした。テープ等の道具は、あまり量がないので、規制せざるをえない時もある。	◎園庭での遊びの時に、もっと遊びが発展できるような環境を整えたい。 ◎興味が湧くような環境を設定していきたい。
	子どもの姿	◎自主的に遊びを提案するようになった。 ◎探究心の芽生えが見られる。 ◎指示待ちの子が減ったように感じる	◎保育士の知識をもっと深める必要を感じる。 ◎様々な範囲の遊びや、保育を保育士一人一人が学び、職員間で話し合いよりよいものにする。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	◎より子どもの声を意識して保育をするようになった。 ◎気付きを保育士が言うのではなく、子どもに任せられるようになった。 ◎子どもの可能性を信じて規制せずに見守られるようになった。	◎保育士全体で統一した保育に対する考えを持つ事が必要。 ◎話し合いの時間を作っていく。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	◎主にクラス便りで細かいクラスの様子や、子どもの様子を伝えていった。 ◎ドキュメンテーションを制作していく中で、考察についての知識が深まり、発達段階の理解に繋がった。	◎バス通園の子の家庭が多く、伝え方が難しい。 ◎ドキュメンテーションを作れていないのが現状なので年間保育計画に取り入れる予定。 ◎保育所保育指針をもう一度読み直す。
	保護者	◎ドキュメンテーションを貼りだしても、写真だけ見ている感じで、なかなか内容までは見ていないのが現状。	◎朝、夕共に忙しくされている方が多く、難しい場面もある。 ◎読みたいという意識を保護者に持ってもらうにはどのようにすればよいのか、職員間で話し、工夫していきたい。
	職員同士園全体	◎職員一人一人の出勤時間も違うので、日々集まって保育について話し合う時間が取れていない現状。 ◎知識不足(研修に全員参加が難しい為)	◎順番に研修に参加するようにしたい。
その他	行事等 その他	◎子どもの様子を見て、時期をずらしたり、内容を変更した。	◎毎年決まった流れの行事になってしまうので、見直しを検討したり、子どもの様子を見て行事を行ったりしていきたい。

ドキュメンテーション

平保育園 4・5歳児クラス ～制作遊びからお祭りごっこへの発展～ドキュメンテーション

日常の遊びに自由な制作あそびを取り入れる事から始まり、その遊びを異年齢で行う事で指先の発達や、考える力、発想の違いのおもしろさ等沢山見られた。季節的にもお祭りだったので、子ども達が経験した後、お祭りごっこを自分達で行った。作る力も身につけてきたので素敵なお店が完成した。又、グループで取り組む事で協調性も沢山見られ成長を感じた。遊びの大切さをあらためて感じた。



たんぽぽハウス

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	◎設定保育と自由保育が混合している現状の中で、子どもの成長に合わせた、子ども主体の保育が出来るよう、準備物等の選択肢を増やしたりすることで、子ども同士の関わりも増えやってみようとする姿も多く見られるようになった。	◎設定保育のあり方。 ◎個々の成長、興味、気付きなどに合わせた保育内容を考える。
	子どもの姿	◎自分たちでしようとする意欲や何でも考えようとする姿が、以前より多く見られるようになった。 ◎子ども発信の言葉が増えた。	◎子どもたち自身の活動を大切にし、様々なことに発展していけるようにしたい。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	◎遊びや活動の中で、すぐに声を掛けたり、遊びこみの妨げになるような言葉掛けをしていることがあったが、子どもが考える材料となるような言葉の投げかけや、問いかけの言葉が増えた。 ◎子どもたちの発見等を一緒に喜び合うことが増えた ◎子どもたちの活動を、見守ることが増えた。 ◎子どもたちの手元に注意するようになった。	◎一人一人の成長段階を把握し、個々への関わり方をもっと大切にする。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)		
	保護者	◎興味を持って見て下さるようになり、子どもたちの活動をより具体的に理解し、親子で園生活をより深く共有される姿が見られた。 ◎遊びの中から子どもたちが、学んだり出来るようになる事が増えていることに気付かれた。	◎多くの保護者の方に見てもらい、保育への理解をして頂けるように内容の向上を図っていきたい。
	職員同士 園全体	◎クラス内では、職員同士で子どもたちの活動の内容や、会話等を共有することが多くなりました。園全体ではまだまだ十分ではありませんが、ドキュメンテーションを通して他のクラスの保育の様子をより詳しく知ることが出来るようになったと思います。	◎職員間の意見交換等は、まだ十分に出来ていないので話し合う時間の確保をしていきたい。(大変に難しい事ですが)
その他	行事等 その他	◎保育士の思いが先行している。	◎子ども主体の活動を重視した行事になるように...

ドキュメンテーション

〇5歳児の生活発表会に向けての取り組み

5歳児が、今年が最後となる生活発表会でどんな劇をしたいのかを皆で話し合い、作りあげていく様子をドキュメンテーションにして保護者に発信しました。

始めは、意見もなかなか出ませんでしたが、出始めると次々と意見も出るようになり、友だちの意見に賛同したり、違う意見も出たりと、話し合いが進む中で、皆が劇を自分たちで作ろうという思いが一つになっていきました。劇を作りあげていく中で、「難しくて出来ないからやめよう」と思ってしまうことも、皆で作る劇だから「諦めないでやってみよう」、「苦手だけどやってみよう」という考え方に変わっていきました。

劇作りを通して改めてこの1年で育った自分たちを発見することが出来たようでした。保護者もドキュメンテーションで劇作りの様子を知っておられたので、子どもたちの力には驚いておられたのですが、発表会を見られてその驚きはより一層大きくなりました。

ドキュメンテーションを通して家庭でも親子の会話が増えたり、保育園での学びの様子や、子どもたちの育ち合いの様子を知って頂けているように感じました。



なかすじ保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	保育士からの発信ではなく、子どもの言葉を拾い保育を進めていくことで、保育に広がりが見られた。	子どもと向き合い、その時その時の子どもの会話や興味、関心を見逃さず、保育を進めていくようにする。
	子どもの姿	子ども同士で話したり、考える機会を多く持ち、目標に向かい、みんなで取り組む姿が見られるようになってきた。	指示がないと動けない子が多い中、子どもの思いを尊重しながらも、ある程度は(はじめ)のある保育を心がけたい。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	子どもの思いや考え、呟きにしっかりと耳を傾けるよう心掛けた結果、子ども発信の保育が多くなった。	その中でも、なかなか自分を出せない子もいるので、いかにそういう子に目を向け引っ張り上げていくかが課題である。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	ドキュメンテーションを作ることにより、子どもの気づきや学びを感じると共に、自分の保育を振り返ることが出来た。	ドキュメンテーションを見て振り返りを行うことにより、クラスや個々の子どもたちの目標や課題を見つけ、次の保育につなげていくようにする。
	保護者	まだ過程や取り組みまでは伝わりにくいのが現状であるが、ドキュメンテーションの意図に気づき、子どもたちの楽しみやがんばりを理解される保護者も出てきた。 中には、まだスナップ写真として見ておられる方もいるようだ。	引き続きドキュメンテーションの取り組みについて知らせる。 見ておられる方には結果だけでなく過程も知ってもらえるように、声掛けを心がけていく。
	職員同士 園全体	取り組みや様子を可視化する事で、そのクラスの子どもの状態を知ることが出来る。 ドキュメンテーションを見て職員間で話をする事により、担任だけでは見逃していたことに気づくことが出来た。	職員間で話す機会を多く持ち、共通理解の元、園全体で日々の保育に取り組んで行く。
その他	行事等 その他	どうしても行事ありきとなっているが、決まった行事であっても、取り組みや内容については子どもと一緒に話し、進めていけるようになってきた。	今まで取り組んできたことを大切にしながらも、子どもの声をひろい、子ども自身が楽しいと思える保育を目指していく。



ドキュメンテーション

けんだまあそび あひるぐみ(3才児)

- ・年長児のけん玉あそびに興味を持ち、ペットボトルでけん玉を作りました。
- ・なかなか入らないけん玉ですが、「難しいなあ～」と言いながらも何度も繰り返し挑戦する姿がみられました。
- ・最初は入れたいという気持ちばかりが先走り、あっちこっちへと玉を振り回していましたが、力加減や、玉の上げ方 膝の使い方などに気づき、練習するうちに少しずつ入る子も出てきました。
- ・成功し達成感を味わうと同時に、「ゆっくりポンとしたら入るで」「見といてこうするんやで」と教え合う友だちとのつながりもみられるようになり、成功させるだけでなく、友だちと「いっせいのーで!」と掛け声を合わせて入れる、数を数える、競うなど、楽しみ方にも変化がみられ、子どもたちで遊びを発展させたり学ぶ姿がみられました。

けん玉あそびを通して入れるという遊びだけでなく、「気づき」や「達成感」、「友だちとのつながり」などへと、遊びを広げていくことが出来たように思います。



東山保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	<p>◎五領域を基本に興味のある玩具等を子どもたちの手の届くところに出しておき、好きな時に遊べるよう充実を図った。 ⇒子どもの興味、関心が広がるようになった。 ・指先を使って取り組めることが増えたり、子どもからの言葉が発信できるようになったと思える。</p>	<p>◎園全体で課題を明白にし、保育環境を整えていきたい。</p> <p>◎子どもの意見を尊重しながら保育を進めていく上で、けじめをつけていきたい。</p> <p>◎まだまだ受け身の子もおり、一人ひとりが満足した取り組みができるようにと、どのように保育士が働きかけをしていくか。</p> <p>◎子どもたちの活動を想定するとともに、力をつけていく。</p>
	子どもの姿	<p>◎子どもの話をよく聞くようになったと同時に、子どもたちも保育士の話をよく聞くようになったと思える。 ◎信頼関係が築け、様々な経験をしてきたので、何でも自分でやってみようとする意欲が芽生えた。 ◎子どもの姿をじっくり見ることにより、子どもの興味のあることを知りやってみたいと思えるような声かけをし、体験をしてきた。 ⇒何にでも興味を示すようになった。 ・「なんで」「なぜ」など疑問、問いかけが増えてきた。</p>	
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>◎様々なことに興味、関心を持ち、探究心が高まってきており、納得いくまで自ら調べて知ろうとしている。 ◎少しずつ自分のしたいことを見つけて活動できるようになっている。</p>	
可視化共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<p>◎一か月一枚程度をめぐりに作成し、春からつながりを持って保育してきたことを部屋の前に掲示している。 ⇒可視化することにより現状の保育がよく見え、保育の振り返りができ、次につなげていくようになった。</p>	<p>◎保護者に理解して読んでもらえるよう、又成長を感じ取ってもらえるように、分かりやすい書き方、表現の仕方を工夫する。</p> <p>◎興味のある人とない人との差が大きく、みんなにプロジェクト型保育を理解してもらいたい。</p> <p>◎忙しい保護者ばかりなので、ゆっくり見てもらえる機会を作る</p> <p>◎ドキュメンテーションを作る時間・人数等、普段の保育に影響なく取り組む為にはどうしていくか。</p>
	保護者	<p>◎まだ写真だけを見ていたり、子どもの顔が映っていないと興味がないように思える。 ◎普段どんなことをしているのかが分かればよいようで、教育的なことまで重要には感じ取ってもらえていない。</p>	
	職員同士園全体	<p>◎話し合いや相談する機会が増えた。 ⇒保育向上の為、団結できた。 ◎他クラスのドキュメンテーションを見るようにしている。 ◎ドキュメンテーションを通して、各年齢の発達段階が分かりやすくなった。</p>	
その他	行事等その他	<p>◎普段の様子を分かりやすく取り入れたものへと移行してきた。 ⇒子ども主体の取り組みで無理なく進められた。</p>	<p>◎プロジェクト型保育を保護者にもっと理解してもらう為に、広報等で舞鶴市全体として取り組んでいることを伝えてほしい。</p>

ドキュメンテーション

4, 5歳児



お米プロジェクト

- 4月 田んぼ作り
- 5月 田植え
- 9月 稲刈り
- 10月 焼きいもパーティー
(もみ殻を使って)
- 12月 リース作り(わらを使って)
- 1月 おはぎ作り(お米を使って)

- ・自明性の高いことが活動を通じての達成感や充実感につながり、この体験が印象深いものになった。
- ・食べるという楽しみやより深い興味・関心のもと、食べ物が作られるプロセスを知り学ぶことができた。

2歳児



2歳児になり手(手先)を使う機会が増え、子ども達も日々上達していく姿が見られるようになりました。そこで、手を使った遊びを取り入れた様子をドキュメンテーションにしました。

八雲保育園

項目		現状・変化・成果	課題と今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	環境を準備して終わりではなく、子ども達がそれにどうかかわっていくのかという所をポイントにしている。遊びに必要な物を自分で準備する為に必要な道具や物のありかや、使い方がわかり、自由自在に使いこなして遊べるように考えている。	園庭がかさ上げにより、さら地となり、草や花を咲かせる所からのスタートです。子ども達と一緒に種をまき、苗を植え、育てていけたらと計画している。
	子どもの姿	年齢ごとの特徴的な姿や、個々の興味・関心によって遊びを見つけ展開している。又、異年齢で過ごしている為遊びが影響し合ったり、子から子へ伝わったりする姿がみられる。	
	保育士の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等)	当園では、遊びの中で子どもが成長するのを支えようという共通の思いでかかわっている。保育士は子どもの心を受け止める感受性のもとで誘い水を仕掛け、遊びの始まりを見逃さず、弾力的にその活動を支え、気持ちに寄り添う言葉がけを手渡し、展開にも停滞にも柔軟に対応できる力をもてるよう努力をしている。	チームとして高まる為に、全員での学習を続けていきたい。同じ視点を持つ事がチームとしての強みになると思う。
可視化	ドキュメンテーション		
	その他のクラスだより、園だより等	毎月クラスだよりとして保護者へ発信している。	発達の理解・遊びの読みとり・書くことの技術などの向上の為に、全員での学習を続けていきたい。
共有	職員同士 園全体	年齢ごとの発達・年間計画・活動ごとのねらいなどに対して、個々に理解に努める事が共有の1番の近道と考えている。その上で、おたよりなどの記録を利用して、見逃した一瞬一瞬までも共有する事が園全体としての子どもの理解につながっている。	話し合いに多くの時間をかけずに共有する為に、保育に対する個々の理解レベルを上げる努力をしたい。
その他	保護者	クラスだよりで発信する事で共有できている。遊びの様子が分かるので子どもからの声を受けとり、保護者が実際に動いたり(箱など必要な物の準備を手伝う)見守る視点が同じになる事で子どもがのびのびできたりする様子をを感じる。保護者アンケートの中でも、子どもが親に伝達する様子が反響が大きく、コミュニケーションの姿が多く書かれてあった。又園の保育に対する理解が深まっている事を実感する内容が多くあった。	
	行事等 その他	保護者にアンケートをとり見直し中	保護者の要望に沿いながら、園の保育を理解してもらえる形で続けていきたい。

毎月のおたよりで発信

成長・つばやき・エピソードからドキュメンテーションへ

1才児

粗大運動、微細運動の様子から成長を見とりお知らせしています。



2才児

子ども時間、対象の変化に対して気づきのつばやきを紹介。



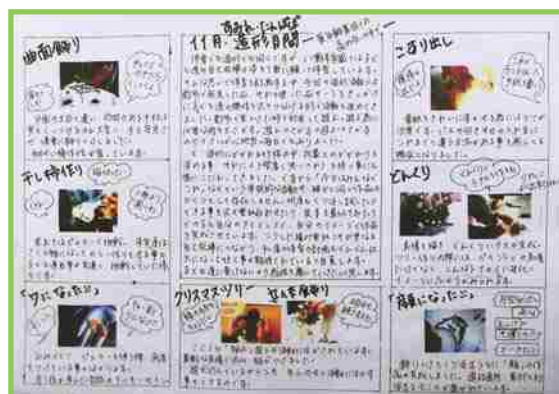
3才児

年長児の遊びをきっかけに泡作りにチャレンジ。自分で「できた」瞬間を紹介し感動を共有。



4才児

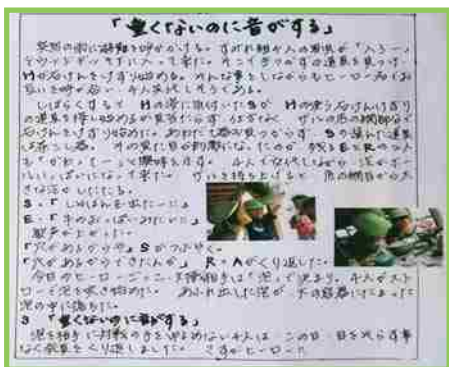
散歩で拾った石をきっかけに次々展開した造形活動をど〜んと紹介。活動に対する保育士の思いや育てたい子ども像も一緒にお知らせしています。



しゃぼん玉

年中児のエピソード記録がしゃぼん玉遊びのきっかけです。

7月号



8月号・9月号

遊びの姿を連続紹介



おたよりがドキュメンテーションに変身

まとめ直す事で、改めて子ども達の成長を感じました。



やまもも保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境		
	子どもの姿	戸外あそびが中心のため、土・砂・水を使い、自分たちで遊びを展開している。保育士が自ら楽しみ遊ぶことを意識することで、子どもたちも遊びこむことができる。子どもたちの興味・関心に目を向ける姿勢、そして小さなつぶやきにも耳を傾けるようになった。	したい時にできる環境を作り、子どもが「おもしろい」「したい」「やってみたい」と自然に思えるように、保育士が自覚的な援助をしていきたい。特に室内遊びでは、次につながるよう考えたり、調べたりできる環境があっても良い。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)		
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	なかなか書くことができなかった。クラスだよりや園だよりにより少しでも記載する意識を持ち、保護者に読んでもらうようにした。	園でどのような保育をしているのか、主体性や環境を大切にされた保育がどうして必要なのかを検証するうえでドキュメンテーションをツールとして活用し取り組む。また、ドキュメンテーションを保護者に見てもらうのはもちろん、ドキュメンテーションを通して保育士と保護者が子育てや保育について話せる機会を作る。
	保護者		
	職員同士 園全体	研修を受け、自主性を尊重した保育の重要性を改めて感じる事ができ、今までやってきた保育に自信を持って取り組んでいる。	職員全体で学べる環境作り。
その他	行事等 その他		

ドキュメンテーション

発見	公園へ行き、ひとりがしいの実を見つける。	
関わり	周りにいた子も「自分も」と同じように拾いだす。 保育士に拾ってもらおうとした子も「ここにいっぱいあるで」とたくさんある所へ行き声をかけることで、自ら見つけて拾いだす。	
製作	「袋ないなあ」の声に、後日MYバッグを作ることにした。 MYバッグを作ったことにより、散歩に行く目的が、子どもたちの中で明確になる。	
経験	昨年2歳児と一緒に生活していた子が「焼いたら食べれるで」と経験したことを覚えていた。今、自分がしていることを過去の体験とつなぎ合わせられることに驚く。	
食べる	焼く様子を見る。 耳で音を聞く。 においを嗅ぐ。 指先で皮をむく。 舌で味わう。	五感をたくさん刺激する



ルンビニ保育園

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	◎何種類かのおそびのコーナーや、いつでもおそびだせ、そのおそびが広がる保育環境を工夫する事により、自らおそびを選び、友だちのしていることにも興味をもち、意欲にも繋がってきている	◎子どもが遊びを選べる環境にしたことでおもちゃの扱いが雑になり、片付けず次のおそびに移る子もあるため、その中でも約束等が必要だと思う ◎子どものおそびの姿を見て、発達の視点を踏まえた遊びを取り入れていきたいと考えているが、環境構成を準備する時間がなく、同じおそびの繰り返しになっていることもある
	子どもの姿	◎自分の思いを言葉で伝えて来る子どもが多くなった。又、その思いを行動に移す姿が出てきた。自分の思いを聞いてもらえる。一緒に感じてもらえるといった喜びが子どもの姿から感じとれるように思う	◎自分の思いが伝えられない子への働きかけや、伝えてくる子どもの思いだけでなく子どもたちの姿から、今何を思いどう感じているかを読み取る力も必要である
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	◎子どものやってみようの気持ちを受け止め、子どもの言葉や動きを傍で見守り待つことで、子どもの姿や、子ども同士のつながりが明確に見えるようになってきた ◎見えてきた分、声掛けも子どもの思いを汲み取った声掛けが出来るようになってきている	◎個々の言葉・思いを大切にしながら、おそびが展開されていくような手だてを考慮する ◎個の発達や、年齢の成長段階の把握をしっかり行い、それを踏まえたアドバイスや声掛けを配慮する
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	◎ドキュメンテーションを作成することにより、保育を見直し、子どもの姿や言葉にも目や耳をかたむけるようになった	◎発達の視点をおさえた文を入れたり、5領域のとらえをしっかりと盛り込んだ物にしていきたい ◎ドキュメンテーションでの伝えは、得たもの、学んだこと、向上していることなどプラス思考でのとらえが多く、中にはその到達途中にいる子もあり、なかなか個別の様子が伝わりきれていない。子の思いや工夫したところ、こだわった部分などを、個別カードにして知らせてもよいかもしいない
	保護者	◎園での活動の様子、子どもの姿を知ってもらえる機会になっている ◎〇〇の場面のドキュメンテーションも見つけたなどの声も出始めている ◎園として、保育の変化を保護者に的確に伝えられていなかった	◎保護者側からみて、その活動での発達の視点等を理解しやすい物にしていく ◎ドキュメンテーションをみてもらい、保護者の思いや意見交換などの機会を持ちたい ◎子どもたちの育ちや学びを、様々な手段で保護者に伝え、理解してもらい、共に成長を喜び合える関係を築きたい
	職員同士 園全体	◎職員同士で話し合う機会が多くなり、クラスの取り組みや各職員の思いを確かめあえるようになった	◎日々の保育や時差勤務などもあり、職員全体で話し合う機会をもつことが難しい。そのためか、会議に出ない職員に浸透していかない面を感じる
その他	行事等 その他	◎行事そのものの在り方、何を大切にしているのか、その行程も含め見つけ直す機会となった。今年度後半の行事では、その思いが反映されてきた姿も見られるようになった	◎行事を例年通り行うのではなく、子どもが主体となり展開していく場面をより多くふくんだ内容の物にしていきたい

中保育所

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが保育士に確認したり、頼まなくても自分で準備できる環境、自分が遊びたいことを安心して実現できる環境にした。 ◎子どもの興味関心に合わせた、工夫された環境があることで、集中して取り組んだり、自分に自信が持てたり、気持ちがあ安定している様子が見られるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの思いやその時の興味が具現化できにくいときに保育士が環境に変化をつけ、遊びを発展させることが出来ていなかった。 ◎子ども主体で保育をすすめていく部分と、環境への関わり方や道具の扱いなど、伝えるべきことと混乱してしまったので、改善したい。 ⇒幼児では遊びと遊びをつなげ、想像力を広げていくための保育士の意図を持った環境作りとその配置に取り組む。 ⇒乳児では、発達に合わせた環境作りの工夫、改善に引き続き取り組む。
	子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎自由に表現活動する機会や、自分で考えたり、工夫したり、選んだりする場面を多く持つこと。自分の思いを受け入れてもらう経験や、保育士が相手の思いに気がつくような関わりを心がけてきたこと、また、異年齢の関わりも大切にできたこと。⇒自分で挑戦したり、上手く行かなくてもあきらめずにがんばろうとする姿や人の思いに気付いて、思いやれる場面が多くなった。 ◎振り返りをする事で活動の共有が出来、遊びが広がったり、コミュニケーション力、聞いて理解する力も育ってきている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎自分の思いや持っている力をうまく表現できなかったり、周りとうまく関われなかったり、自己肯定感の低い子どももまだ多い。 ◎家庭も巻き込みながら子どもの力に応じた主体性のあり方や支援のポイントを工夫していく必要を感じる。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ◎ねらいをもちつつ、先に声かけせずに、子どもが考えたり工夫したりできるよう、また子ども同士をつなげ、関わり合い、育ち合えるように、努力してきた。 ◎保育士自身も子どもの持つ本来の力に気が付き、発達や年齢に適した声かけや見守りが出来る場面が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎大きな声で呼びかけたり、子どもの思いよりも保育士の進めやすい方向に持って行ってしまっていることがある。 ◎保育士对子どもの関わりや、やり取りは把握できても、子ども同士の関わりや育ちに視点が行きにくい。 ⇒子どもをよく見るといこと、子どもに寄り添うといこと(子ども主体)を再確認していく必要がある。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<ul style="list-style-type: none"> ◎日々の保育内容の記録と重ならないように、日誌形式でお知らせしている。 ◎行事までの経過や、それまでに子どもがつけてきた力、発揮してきた力を様々な形でお知らせすることで、保育士も保育の振り返りになり、ねらいをもって保育に向かえるようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保育士の負担の軽減もあり、日誌と併用しているために保護者は字数も多く見にくさも感じておられるという意見もあった。⇒見やすいドキュメンテーションにすると、ねらいや、育ちが表現しきれないという悩みもあり、今後は保護者により興味を持っていただけるように読みやすさを工夫したり、遊びの中の学びを感じてもらえるように5領域(10視点)なども意識して取り組みたい。 ◎発達や個々の育ちに特化した掲示の仕方(場所、関係物の掲示)も工夫していきたい。 ◎クラス便り、保育所だより、懇談、行事なども育ちや学びを意識して伝えていきたい。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ◎日々の子どもの姿や思い、学びを知らせていくことで、保護者自身が子どもを色々な視点や価値観でとらえてくれるようになってきた。 ◎頑張っていることや様々な過程があったことを知ってくださり、わが子の出来なかったことも認められたり、ありのままを受け止められたり、変化が見られた。 ◎それらすべてが、家庭での会話になり、子どもの自己肯定感の向上につながっている。 ◎また、全年齢のドキュメンテーションを見ることで、保育所の生活や子どもの育ちに見通しを持ってもらえた。 (アンケートより…) ◎子「お母さん、衣装ちょっと失敗したけど、どうだった？」母「どこが失敗？世界に一つしかない衣装でかっこよかったよ。」 ◎「本人もすごく発表を楽しみにしていたけど、当日劇には参加できず、横からチラ見する程度の参加…少しでも参加できたことをほめてやりたいです!!」 ◎「日々しっかり身体を動かしたり、自分達で話し合いをし、それが自信につながっていると思った」 	<ul style="list-style-type: none"> ◎ドキュメンテーションの理解・関心にまだまだ個人差がある。より多くの保護者に、子どもの成長や大切なこと、保育内容などに興味を持ってもらえるように、読みやすさを工夫し、伝えたいことに焦点が絞れるように努力が必要と感じている。
	職員同士 園全体	<ul style="list-style-type: none"> ◎ドキュメンテーションや園内公開保育で自分の保育を客観視することにより、子どもへの対応や保育内容を見直したり、他の保育士の思いや子どもの成長を共有できた。また、他の保育士のこんな考えや見方、取り組みもあるのかと、自分の保育へのヒントになり、振り返りにもなった。 ◎保育内容を共有することでクラス同士の活動をつなぐきっかけになったり、同僚性が生まれた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎研修への参加に偏りがあったり、就労形態の違いから共有しにくい。 ◎担任間、全体、様々なグループで園内研修(例、子どもの活動から、学びを見とるなど)や意見交流する時間がもっととれるとよい。
その他	行事等 その他	<ul style="list-style-type: none"> ◎見た目や、結果重視ばかりでない、子どもがどれだけ、自分の思いを表現できたか、達成感や満足感、そのことを楽しめたかを実感できる“子ども主体の行事”に近づけるために、保護者の理解に努めている。 ◎行事までの子どもの思い、経過を知らせることで、その部分も含めて行事として捉えてくださる傾向にある。 ◎保育士も行事(所内)に取り組む時、ねらいや伝えたいことを明確にし、その上でどのようにしていくかという視点をもつようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもには、行事を通して自分のよさに気づけ、人とのかわりを喜び、楽しめるようにしていきたい。 ◎保護者には、行事に参加することで、より自分の子どもの持つよさに気付いてもらったり、年齢発達がわかったり、その年齢に経験させたい内容が理解できるような行事を目指していく。 ◎参加しにくい保護者へのアプローチの仕方や、働きかけを考えていく必要も感じている。

ドキュメンテーション

<おたのしみ会プロジェクト> 幼児

各クラス、劇遊びに取り組んだ様子を、時系列のドキュメンテーションにしました。(①)
 夏まつりの飾りつくりが、おばけへの興味のきっかけになった、4歳児ゆり組「どろろん病院だいそがし」
 ①のドキュメンテーションとは別に、夏からの興味・関心、育った力、取り組みの様子を、より保護者に読みやすい、また子どもの振り返りがしやすいことを意識して作った“ゆりぐみ おばけストーリー”(②)
 保護者からは「こんなに活動が続いてるんですねー！！」の声や、子ども同士では「おばけ、作ったなー！」
 「おばけ屋敷したなー！」などの振り返りも出来たようです。

①



②おばけストーリー



保育所近隣の恵まれた自然環境の中で体と心を一緒に育てていきたいという思いのもと、季節の変化や発見を楽しみながらのおさんぽ

春

ハイハイの子、ヨチヨチあるきの子が自分のペースで！！転んだりおきあがったり...
 手元にはっぱもは～っけん♪
 探索のはじまり！！



秋

いつもの道、同じ場所...でも移りゆく自然。足取りもしっかりした子ども達には、人との関わりを楽しむ社会性の芽生え

冬

凍りついた雪道...不安定な足元でもバランスを取りながら歩ける力。氷つめた～い！！好奇心の広がり

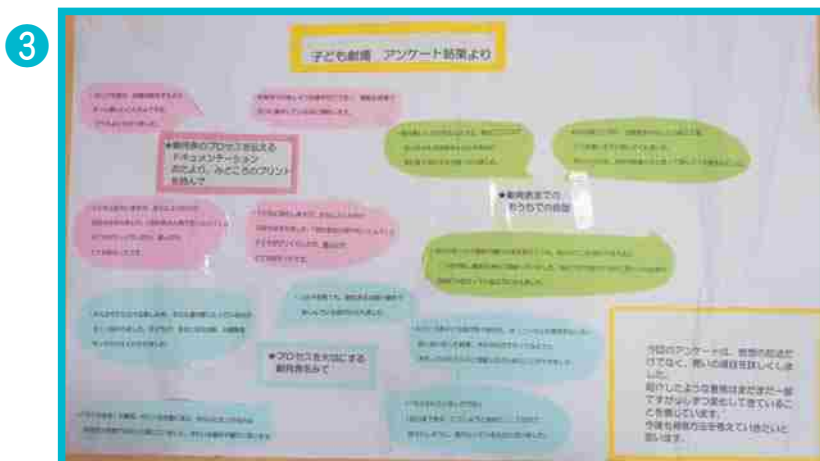
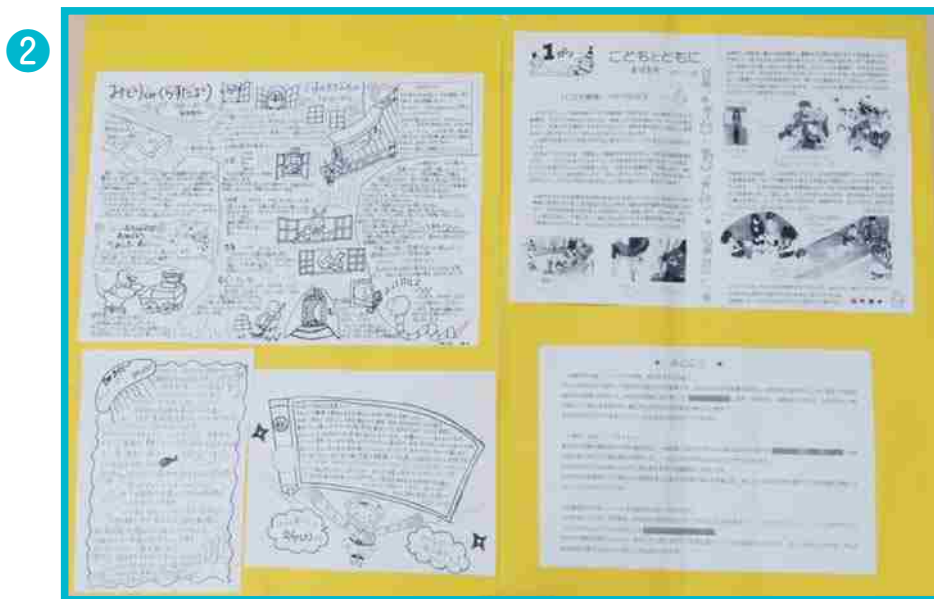
東保育所

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの興味や関心をもとに、あそびや環境を設定したり道具や素材を意図して準備することで、あそびが広がったり、発展していった。 ◎調べる比べる環境をつくったことで、興味関心が広がったり、主体的に調べようとする姿が見られ、あそびがつながっていった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの興味や関心に変化していくことを敏感にキャッチして、環境を整えていく事が難しい。 ◎発達をしっかりとおさえ、ねらいに合わせた環境の設定や教材の準備をしていく事をさらに意識していきたい。
	子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもたちの主体性を引き出す言葉かけや、問いかけをする事で、自ら考えたり、調べたりする姿が増えてきた。 ◎保育士が異年齢の交流を意識し、一緒に製作できるコーナーを設定することで、異年齢のかかわりが生まれたり、お店屋さんで発展するなど、あそびが広がり豊かになった。 ◎遊びを積み重ねる中、遊びが続く、遊びこむ姿が見られるようになった。 ◎保育士に「～して」といってくる事が減り、自分で工夫しやってみようとする姿にかわってきた。子ども同士のつながりが増えた。 ◎自然物をすりつぶすコーナーを設定することで、ごっこあそびに展開するなど、あそびが広がった。 ◎経験を積み上げていく中で『○○な××だ』など、言葉が増え表現が豊かになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎あそびこむ姿が増えてきた反面、あそびがつづかなかったり、したいあそびを見つけられない子もいる。 ◎子どもの興味や関心にそった環境設定や、保育士の関わりを意図的におこなう。 ◎できた、できないなどの結果や完成度よりも、選んだり、こだわったりなど、子どもが考えたり、主体的にすすめることを大切にしながら、意図するねらいや各年齢での発達をおさえて保育していきたい。
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもへの関わり方、言葉かけを意識する事で、子どもをしっかり見たり、声に耳を傾けたり、待ったり、子どもへの働きかけ方を考えるなど、子どもの興味関心に寄り添えるようになってきた。 ◎子どもひとりひとりを丁寧にみるようになり、子どものよい面をひきだしていく関わりができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの思いの中に保育士の教育的意図をどう入れていくのか難しさを感じる。 ◎子どもの興味や関心がどこにあるのか、見きわめる目をもち、あそびとあそびをつなげ広げていくよう意識的な働きかけができるようになっていきたい。
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの手元や、物に関わる写真の撮り方にも変化が見られるようになり、視点の押さえ所がわかるようになってきた。 ◎タイムリーに出すようにしているが、まだまだ試行錯誤している。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもが学んだこと、育ったところなど、ドキュメンテーションの意図するところをわかりやすく伝えることも含め、見たくなる読みたくなる見せ方、見やすい、わかりやすい発信を工夫する。 ◎毎日出すのが良いのか、数日おく事も大切なのではないかと、検討中である。 ◎年齢ごとの発達をおさえ、5領域を意識したものになるようにする。
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ◎劇発表会后、保護者のコメントの中に、「自分達で考え、決めたことなので、堂々としていた」や、「つくった小道具の優れたところを教えてくれ、隠し場所に保管するなど、思い入れがあり自信につながっていると感じた」「子どもたちが、みんなでつくりあげる楽しさをすごく感じているのが伝わった」などがあり、おたよりやドキュメンテーションで、プロセスを伝えたり、子どもが見所を言ったり、アンケートの出し方も、意図して、伝えたいポイントを項目にするなど工夫したことで、評価の視点が変化してきているのを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎行事だけに注目するのではなく日々の保育の重要性や、何を大切に保育をすすめていくのかなど、機会を捉えて伝えていきたい。 ◎一部の方には理解得られつつあるが、多くの保護者に広げていきたい。 ◎送迎できない保護者にどう発信していくか課題である。
	職員同士 園全体	<ul style="list-style-type: none"> ◎クラス内の連携はもちろん、クラスをこえてのつながりや共有ができ始めている。そのことで、さらに、子ども同士がつながり、また、職員同士がつながり、良い循環になりつつある。 ◎クラス間の連携に朝礼後の時間を有効につかえるように考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎保育やドキュメンテーションのふりかえりの時間を確保する難しさがある。 ◎長時間や、代替保育士を含む全職員に浸透させ、共通理解のもと保育するために所内研修を充実させたい。 ◎会議でふりかえる中で、同僚間で認めあったり、自分以外の視点に気づくなどチーム間で育ちあえるようにしたい。
その他	行事等 その他	<ul style="list-style-type: none"> ◎子どもの興味関心を基本にして、日常の保育から継続的に取り組み広げていく事や、保育士主導ではなく子ども自らつくりあげていく、プロセスを大切に劇発表表を目指す中で、保育士が意識的にかかわるようになり、子どもが意欲的になったり、表現力が豊かになるなど成長がみられたり、上記のように保護者の視点に変化がみられたのは成果であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎子ども発信から、保育をつなげ、展開していくことができはじめた。子ども発信だけでなく、それぞれの行事における明確なねらいのもと、つけたい力を意識し、日々の保育とつながっていく事も考えながら、見通しを持って取り組んでいきたい。

ドキュメンテーション



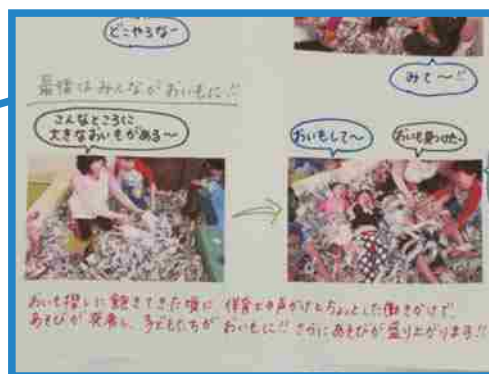
- ①日々の生活の中の小さな発見、気づきを書いたドキュメンテーション
- ②行事に向けての取り組みは、ドキュメンテーションだけでなく、園だよりやクラスだよりを通じて保護者に発信しています。
- ③行事後には、アンケートを実施し、結果ではなく、自分たちで考えつくりあげるプロセスに学びや育ちがあることや保育のねらい等の伝えたい内容を盛り込むようにしました。保護者の反応も、「よくできた、上手だった」「できなかった」というだけの評価から、少し変化も見られてきています。



東乳児保育所

項目	現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性	
子ども主体の保育	保育環境	<p>◎自分で好きな遊びやしたい活動を選んでもできるようクラスの中で、また異年齢での遊びの中でコーナー遊びを多く取り入れるようにした</p> <p>◎与えられたもので遊ぶのではなく、自発的な遊びの姿が常に見られるし、「○○したい！」という声も聞かれる</p> <p>◎見たことや体験したことを自分たちで遊びの中で再現したり、違う形に展開させている姿もあった(お魚体験・さつまいもプロジェクトなど)</p> <p>⇒したいことがみつからず、遊べなかったり保育士にべったり甘えている子が減り、遊びに熱中する子が増えた</p> <p>◎年上の子を真似たり、年下の子に優しくしたりと、異年齢での関わりが増えて、お互いに刺激し合っている</p>	<p>◎保育士主導の遊びの設定になりがちな傾向にあった、また、お膳立てしすぎになっていないか、という反省もある</p> <p>◎保育士全員が、みんなで、同じ思いでどのクラスの子も見ていく、という強い信頼関係が必要</p> <p>⇒子どもの声や遊ぶ姿から発信されることをうまくキャッチして、環境設定に取り入れたり、遊びを発展、展開していけるようにする</p> <p>◎静と動の遊びのバランス、年齢や発達に合わせた環境設定を状況に合わせて変えていくと同時に、あそこにいけば必ずあの遊びがある、というおなじみの場も作っておくなどの工夫をする</p> <p>そのためには、保育士間の話し合いがもっと必要</p>
	子どもの姿	<p>◎子どもが安心して遊びに向かえるよう、ありのままを受け止め愛着関係を築くよう心がけている</p> <p>◎子どもに関わる時、「？」の思いに接する時は、子どもの声や行動を見守り、一緒に考えたり調べたりして子どもの思いを大切にするようにした</p> <p>⇒共感することの重要性を強く感じている</p>	<p>◎子どもの思いや行動を予測することと、先取りしたり決めつけたりすることの境界が難しい</p> <p>⇒常に待つだけでなく、保育士から投げかけたり子どもが自ら気づいていけるような関わりを考えていく</p> <p>また、その気づきを遊びや活動に発展・展開させたり周りの子どもたちへ広げていく関わりも工夫していく</p>
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>◎子どもが安心して遊びに向かえるよう、ありのままを受け止め愛着関係を築くよう心がけている</p> <p>◎子どもに関わる時、「？」の思いに接する時は、子どもの声や行動を見守り、一緒に考えたり調べたりして子どもの思いを大切にするようにした</p> <p>⇒共感することの重要性を強く感じている</p>	<p>◎子どもの思いや行動を予測することと、先取りしたり決めつけたりすることの境界が難しい</p> <p>⇒常に待つだけでなく、保育士から投げかけたり子どもが自ら気づいていけるような関わりを考えていく</p> <p>また、その気づきを遊びや活動に発展・展開させたり周りの子どもたちへ広げていく関わりも工夫していく</p>
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<p>◎その日のことをリアルタイムで伝えられるよう、日誌型のドキュメンテーションをできるだけ書くよう心がけた(写真+少しの文でわかりやすいように)</p> <p>同じ内容をクラス便りに載せることもある</p> <p>⇒くり返し書くことで、自分の中にたくさん気づきがあり、ひとつのことも視点はたくさんあるとわかった 写真の撮り方も、ポイントを押さえてうまく撮れるようになってきた</p>	<p>◎ドキュメンテーションを書く時間の確保が難しい</p> <p>◎その日のことをその日に書いておしまい、ではなく、遊びも、子どもの成長・発達もずっとつながっている、ということを常に意識していくことが大切</p> <p>⇒できるだけ勤務時間内に書けるような勤務態勢作りが必要</p>
	保護者	<p>◎廊下に貼りだしてあるものに足を止め、じっくり見て下さる方が増えた</p> <p>◎貼りだす場所を、玄関先から廊下に変えたことでより見やすくなった</p> <p>⇒わが子が写っているがどうかだけでなく、ドキュメンテーションの中で伝えたいこと(子どもの成長・発達、保育所という集団の中での育ちなど)を理解してもらっていると感じる</p>	<p>◎まだ関心の薄い親、あまり見てくれない親、見てもわが子の姿しか興味のない親への発信の工夫</p> <p>⇒見たくなるような目を引く書き方や、わかりやすい書き方の工夫(見やすい貼り出し方も合わせて)</p> <p>◎子どもの学びへの理解を進めるアプローチを考える</p>
	職員同士 園全体	<p>◎他人任せでなく、担任保育士全員でドキュメンテーションを書く、という体制をとる</p> <p>⇒お互いに子どもの姿を伝え合ったり、声を掛け合うことが多くなり、これまで以上に責任を持って他クラスの子どものこともみるようになった(子どもの育ちを共有)</p> <p>◎他の人が書いたものを見ることで勉強になる</p>	<p>◎カンファレンスが十分できていない</p> <p>⇒まずはクラスの中でカンファレンスをしていく</p> <p>それから保育士全員でお互いの書いたものを見合っ、話し合う場を持ち反省点や課題を明確にしていく</p> <p>◎引き続き研修を受けて勉強していく</p>
その他	行事等 その他	<p>◎イベント的な行事ではなく、日々の活動の流れをうまく行事に生かすことができた</p> <p>⇒さつまいもプロジェクト</p>	<p>◎これからの行事は、日々の遊びや活動の中から生まれてくるものをベースに、子ども主体の内容で作りに上げていくことが大切</p> <p>その中にねらいや意図をはっきりさせ、保育士の思いと共に伝えていくことが大切ではないか</p> <p>⇒子どもの年齢や発達に合った、必要な行事にしていく</p>

ドキュメンテーション



“さつまいも”を通して、遊びが、クラスが、子どもと子どもが、子どもと大人がこんなにもつながっていききました！

南乳児保育所

項目		現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境	<p>◎子どもたちが遊びを選択できるよう環境や素材を工夫した。⇒子どもが～したいと言葉にできたりしようという思いや意思が出てきている。</p> <p>◎保育所全体をオープンにすることで、他クラスへ行って遊んだり、好きな場所へ行く機会が増えた。⇒”できないのでは”と先入観をもたず子どもの力を信じ経験させたり、見守るようになった。</p>	<p>◎子どもの遊びに応じた環境の見直しをもっとあってもよかった。</p> <p>◎次々と遊びが移ってしまい落ち着けるスペースや環境が確保できていなかった。</p> <p>⇒年齢にあった 環境・おもちゃ・遊びの素材の見直し。</p>
	子どもの姿	<p>◎異年齢の交流が増えたことで、ごっこあそびを模倣したり、夏のあそびに意欲的に入っていき姿が多かった。</p> <p>◎色々な事に気づき、要求を言葉や行動にし遊びの選択をしようとしている。</p>	<p>◎夏以降、異年齢の交流が広がらなかった。保育士間の意思統一が必要。</p> <p>◎自分から遊びに入りにくい子どもへの保育士の言葉がけや寄り添い方。</p> <p>⇒異年齢の交流を通して遊びがにつながる保育。</p>
	保育士の子どもへのかかわり (子どもの見方、声かけの仕方等)	<p>◎子どもの要求を受け止め、柔軟な対応をした。</p> <p>◎指示をするのではなく、子どもが遊んだり考えたりできるような言葉がけをするようになった。</p> <p>◎発達を意識して子どもを見るようになり、行動から次の発達に結びついていくことが予測できるようになった。</p>	<p>◎乳児ということで保育士の言葉がけが多くなってしまいがちだった。</p> <p>◎幼児と違い見守る部分と意思に任せる部分との見極めが難しかった。</p> <p>◎月齢に合った発達ではなく、一人ひとりの発達を見極めきれない時があった。</p> <p>⇒一人ひとりの発達をよく理解する。</p>
可視化 共有	ドキュメンテーション (クラスだより、園だより等も含んで)	<p>◎他クラスのを見ることで、次の成長や姿が具体的に予測できたり、意識して関わりが持てるようになった。</p> <p>◎日誌と兼用にして毎日書くように心がけた。</p> <p>⇒書くことで子どもの思いや発達を知ることができた。</p>	<p>◎記録の中で「できる」という言葉を使うことが多い。</p> <p>◎保育士の思い込み、解釈を書いてしまう時がある。</p> <p>◎写真の撮り方や撮ることに集中してしまい子どもの姿を見落とすことがあった。</p> <p>⇒「できる」「できない」や思い込みで子どもを見るのではなく、視点を変え、自分の保育も見直す。</p>
	保護者	<p>◎足を止めてドキュメンテーションを見てくれる人が増えた。⇒ドキュメンテーションをきっかけに会話を展開したり子どもの様子を伝えられた。</p> <p>◎クラスだよりでも子どもの様子を主に伝えていたのが発達や学びを意識した文章になってきた。</p>	<p>◎どこまで保護者に伝わっているかがわからない。</p> <p>可視化について保育士の思いや意図を伝えきれていない部分もあった。</p> <p>◎自分の子どもの写真探しをしている方もまだある。</p> <p>⇒保護者に共有してもらえそうなドキュメンテーションの書き方をする。</p>
	職員同士 園全体	<p>◎書いたものをお互いに話したり確認し合い子どもの姿を共有する中で、自分とは違う見方や考え方にも気付いた。</p> <p>◎ひとつの活動に対するねらいや学びに対する意見交換ができた。</p> <p>◎子どもの姿や保育について思うことを伝え合い共有することが増えた。</p>	<p>◎他クラスの担任と具体的な事例がもっと話合えるとよかった。</p> <p>⇒事例検討など話し合いを深め連携して保育を進めていく。</p>
その他	行事等 その他	<p>◎登所時よりホール・各クラス好きな所であそべるようにした。(あそびの選択肢を増やす。)</p>	<p>◎まだまだクラスの枠が取り払えない部分もある。</p> <p>⇒全職員の子ども主体の保育についての意思統一が必要。</p>



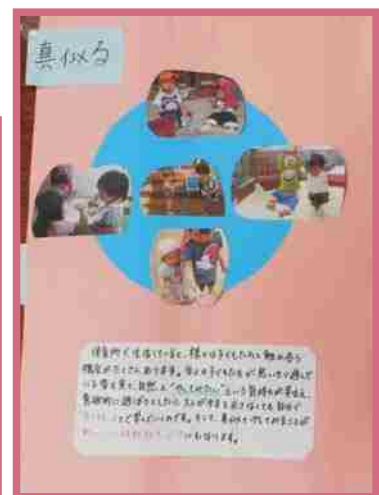
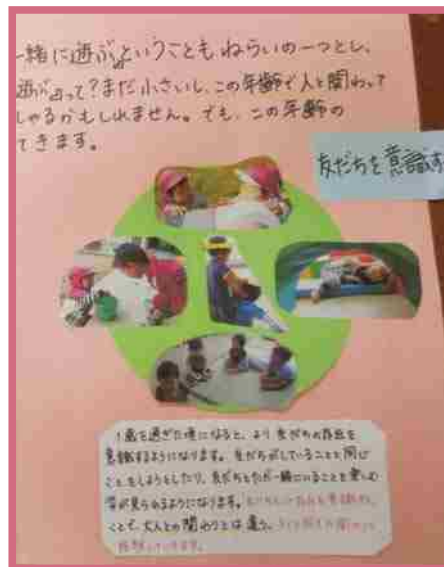
ドキュメンテーション

<0歳児>

親子行事の時に、「親子で一緒に遊ぶ」ということをねらいの一つとして様々な遊びのコーナーを設定しました。しかし、保護者から「まだ小さいから一緒に遊ぶのは難しい」という声が聞かれました。

それを聞いて、0歳児と一緒に遊ぶとはどういうことかということを念頭に、この時期の子どもの発達や、そのことから読み取れる育ちを知ってほしいという思いから、まず今の子どもの姿を伝えました。

(子どもが)「見る」「友だちを意識する」「真似る」という3つのポイントに絞り、この時期の子どもたちが、何も分かっていないのではなく、他者を認識し、観察し、様々な刺激を受けていることを知らせました。



それを受けての大人の姿として、保護者にこんな関わりを持ってほしいという思いから、安心して遊びに向かう根本は大人との関係が重要であることを伝え、それも分かりやすいよう、5つのポイントに絞り、1つでも実践してもらえれば、「一緒に遊ぶ」ということの手がかりになるかと思い、ドキュメンテーションとして発信しました。

西乳児保育所

項目	現状・取り組み ⇒ 成果	課題 ⇒ 今後の方向性
子ども主体の保育	保育環境 ◎子どもの興味や発達に合わせて、物の配置や遊びの設定をし、子どもの動線や、子ども達の伸びてほしい点も意識した。 ex)虫に変身→なりきる→ごっこ遊び ex)動きたい→室内にも鉄棒・マットを置く ◎いつも同じだとマンネリ化し、遊びも雑になってしまうので、その場に保育士が寄り添い、遊びを広げたり共感するよう心がけた。	◎道具の使い方がわからず持って走り回ったり、友達をたたく為に使うなど、間違った使い方をすることがあったので、見本となって遊んだり、道具の正しい使い方を伝えていきたい。保育士がじっくり付いて遊びを知らせることも必要。
	子どもの姿 ◎やりたいと思った時に、即 行動に移せる環境を用意することで、より満足感、達成感を味わうことができた。 ◎「自分が」という気持ちが強く、トラブルになりやすいこともあったが、言葉で伝えたり、保育士の促しで、一緒に遊ぶことを楽しむ子もいる。 ◎興味や関心が深まり、様々な活動に積極的である。 ◎「何で?」「どうして?」と疑問も増えた。 ◎自分の思いを素直に言葉で表現している。 ◎物事をじっくり見て言葉にする。 ◎生活面での自立にもつながっていった。	◎0歳児の子も、行きたい場所(他クラスなど)へ行って遊べるようにした。異年齢の交流を常にしているが、安全面には充分注意しなければいけない。 ◎まだまだ言葉で伝えられない面がある為、すぐに手がでてしまう。思いを受けとめ、言葉で伝えられるよう促していきたい。 ◎子ども主体の保育、子どもの思いを聞き入れることに関し、本当にこれでいいのだろうか?と戸惑う時期もあった。しかし、それを実践してきた今、左の子どもの姿に記した様に、子どものあらゆる成長を見ることが出来、これで良かったのだ...と確信することが出来た。
	保育士の子どもへのかかわり(子どもの見方、声かけの仕方等) ◎マイナス面に目を向けてしまいがちだったが、褒めたり、プラス面に目を向けられるようになった。 ◎子どもの言葉や考えを待とうと意識している。まだ小さいので、きっかけ作りもしている。 ◎興味をもっているから...こうなってほしいから...と考えて関わるが増えた。誘いかけの言葉も増えた。 ◎子どもが、「やりたい!」と思った時に、出来るだけ添えるように(生活面も)心がけた。 ◎待たせることや、禁止することを出来るだけ少なくした。穏やかに、口うるさくしないように。	◎子どもの興味、関心に焦点を絞りがきれていない部分があり、見極める力をもっとつけていきたい。 ◎子どもの主体性を大切に保育を進めるには、保育の技量や保育士自身の心の余裕を持つことが大切であると感ずる。 ◎目立つ子ばかりに目を向けてしまいがちである。 ◎忙しいと、どうしても遠くから子どもに呼びかけ、声が大きくなってしまっているので気をつけたい。 ◎途中入所などで、子どもの人数が増えてくると、伝達事項なども含め、声が大きくなってしまい反省である。職員間でも、子どもに対しても、話しかける時は、側まで行って伝えるようにしたい。
可視化 共有	ドキュメンテーション(クラスだより、園だより等も含んで) ◎発達、トラブルなども、ありのままをわかりやすく伝えよう、と思えるようになった。そして、子ども発信の保育内容を考え、保育士も楽しみながら伸ばせる所を充分伸ばし、発揮できるよう保育に取り入れた。 ◎子どもの気づき、言葉、発達にも触れながら、作成できるようになった。 ◎保護者に、見やすく、楽しんで見てもらえる事を意識して書いた。結果、ほとんどの保護者がよく見てくれている。	◎育ち、学び、保育士の意図など、専門的な内容を書こうとすると、どうしても、字数が多くなったり、情報が整理できずにいる。わかりやすく書く為に、ポイントを絞る、など研修や指導を受け、意識は出来るようになってはいるが、所内でも、もっと話し合いを持ち学んでいきたい。 ◎見ている保護者の生の声を、担任が聞きたいので、玄関に貼り出す前の1週間、クラスに貼り出すことにする。関心のない人にも、声をかけられる。
	保護者 ◎ドキュメンテーションや保護者への手紙などで、日頃の様子などを伝えてきた結果、次の様な効果があった。 ◎「小麦粉粘土を作りたいので、作り方教えて下さい。」と言われる保護者がいた。携帯ばかりいじってなかなか寝ない、との事だった。今までは、携帯を与えていた母であったが、変化してきた。 ◎姉妹の、下の子への思いや関わり方のほうが多いと思われた母が、ある日ぐずり泣きする姉の気持ちを充分に受け止めてあげようとする姿があった。急いで出勤しなければいけない朝だったのに、玄関で思いとどまり、引き返して行く母の姿に感動した。「お母さん、えらいね。」と思わず声をかけにいった。「どつきたいところを我慢して...」との返答だったが、母の気持ちの変化が嬉しかった。その後、姉と1対1でじっくり関わろうとされている様子が見られた。 ◎ドキュメンテーションの保護者の感想で、「自分が子どもと関わる時も、こういう見方をすれば良いんだな。」と参考になる。」との意見があった。ドキュメンテーションを読んで頂くことで、保護者の意識も変化し、家庭でも、子どもにとって望ましい対応をして頂けることは成果である。	◎ドキュメンテーションについてのアンケートをとり、保護者の思いを知ることが出来たが、保護者が見ている時の、生の声、反応を知りたいので、来年度からは、1週間クラスに掲示することから、玄関に掲示することにする。
	職員同士園全体 ◎職員会議などで、子どもの様子、抱えている問題点などを伝え合い、話し合った。研修の復講をする。 ◎プロジェクト型保育を意識した、保育課程の見直しや確認などの勉強会を定期的にする。全職員の理解と連携が大切なので、常勤の職員だけでなく、パート、代替職員、との勉強会もした。 ◎保育の本やDVDを、職員で回して勉強する。 ◎ドキュメンテーションを使つての研修。 ◎日頃から、他クラスの子どものことにも目を向け、こんな様子だった、こんな表現をしていた、などと担任同士、伝えるよう意識した。	◎ドキュメンテーションで、伝えたいことを明確に、見やすくする為に、もっと所内での話し合いや研修をするべきであった。まだ戸惑いがあるので意見を出しあって、より良いものを作っていきたい。 ◎大切なことを全職員で共通理解しているつもりであったが、朝夕の職員が実践するのにはまだまだ課題がある。周知に努めたい。
その他 行事等その他	◎秋の親子行事は、過去2年、舞鶴幼稚園の遊戯室を借りてミニ運動会をしていたが、子どもの興味関心...という観点から、子どもたちが散歩で拾ってきた自然物を使って親子で遊ぶ、というものにした。‘子どもの成長には遊びが大切!‘自然や仲間と遊ぶ体験が、昔と違って減ってきている現代、この環境を存分に生かした日々の保育を大切にしていきたい’と伝えた。保護者の方々も、子どもと一緒に遊びを体験する中で、子どもが何に興味を持ち、何を発見し、どんなことに喜びを見つけるのか...をじっくり感じてもらえる活動となった。	◎クリスマス会では、各クラスの遊びの途中で、サンタさんが訪れる設定にしている。参加された2歳児の保護者の中には、「楽しかったけど、遊びがそれぞれで、残念だった。みんなでする、発表のようなものが見たかった。」との意見があった。プロジェクト型保育の研修を受け、誰のための行事か?をあらためて考えさせられた今、話し合いの結果、来年度からは、子どもたちだけで楽しむクリスマス会にしよう決めた。その他の行事に関しても、現在見直し中である。保護者の意識を完璧に変えていくには時間がかかるが、引き続き、大切なことを伝えていきたい。

ドキュメンテーション



<2歳児>

園庭でどろんこ遊びをしていた子どもが、ホースに興味を示し手に取ったところ、水が出ていることを発見する。その水が土に溜まっていき、次に無くなる様子をじっと観察している。次は、違う場所でもためしてみる。子ども自らが、遊びの中で発見したり、ためしたりする様子をとらえた。



<1歳児>

自己主張と自己主張のぶつかり合いは、よくある光景だが、けんかをすぐ止めるなど、どうしてもマイナスにとってしまいがちである。この時期は、自我が出てきて、自分の思いを通そうとする時期…という年齢発達を保護者に伝えた。